

本を読もう！

退職教員 記念号

和光大学の先生が学生に読んでほしい本を紹介する『本を読もう！』の第6集が、2025年3月末に発行されます。それに先駆け、2024・2023年度退職の先生に原稿をお寄せいただいた「退職教員記念号」をお届けします。

和光大学の多様な研究分野を脈々と受け継いできた先生方に感謝と敬意を込めて。ぜひ、本とともに手に取ってお楽しみください。

2024 年度退職

経済経営学部 経営学科 **鈴木 岩行**先生

現代人間学部 人間科学科 **野中 浩一**先生

現代人間学部 心理教育学科 **山本 由美**先生

2023 年度退職

表現学部 芸術学科 **倉方 雅行**先生

現代人間学部 心理教育学科 **後藤 紀子**先生

表現学部 総合文化学科 **松村 一男**先生

『本を読もう!』第6集は2025年3月末に
図書・情報館で配布、ホームページ公開予定です。

過去の刊行物も、下記QRコードの
図書・情報館ホームページにて公開中です。
ぜひご覧ください。



Q. 退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！



まだしなければならないことが多く、退職後のことまで考えが及びませんが、勤務を除いて当面は今までの生活と同じことをするだろうと思っています。

今までの生活の中心は読書と（主としてアジアへの調査のための）旅行でした。読書は研究のためを除けば、気に入った1人の作家の作品を読破するスタイルです。最近は内田康夫の著作を約100冊読み切りました。内田康夫の小説は旅情ミステリーなので、小説の舞台となった場所へ行くと、臨場感が伝わりました。これからも他の作家の作品の読破を続けていきたいと思っています。

旅行に関しては、今後は海外に行くことはなくなると思うので、国内でまだ行ったことのない地方へ行ってみたいと思っています。

『カレー移民の謎』

——日本を制覇する「インネパ」——

室橋裕和（集英社新書）

在日ネパール人の数は今や二〇万に達し、中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルに次いで第六位で、ネパール人の百五十人に一人が日本にいます。人口比では、歴史的経緯のある韓国を除けば一位です。現在インド料理（インド・ネパール料理を含む、以下インネパール）店が増えています。そのコックの多くがネパール人で、在日ネパール人の三分の一はインネパール料理のコックとその家族だといわれています。本書は、なぜ今インネパール料理店が増えているのかということから、人口減少の続く日本で今後貴重な労働力になるであろう在日外国人の生活の一端を紹介しています。

『地方消滅 2』

加速する少子化と新たな人口ビジョン

人口戦略会議編著（中公新書）

『中央公論』二〇一四年六月号に「このままでは全国八九六の自治体が消滅する」と発表され、各界に衝撃を与えました。それから十年が経って著された本です。Ⅰ部が消滅自治体最新データ篇で、消滅可能性自治体から脱却した自治体があることなどが明らかにされています。Ⅱ部は二一〇〇年への提言篇で、安定的で、成長力のある「八千万人国家」を目指すべきだとしています。人生百年時代に向かって、後約八十年ある皆さんに是非関心を持ってもらいたいテーマを扱っています。



Q. 退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

紺屋の白袴で、個人の生を衛る行動ができていない不届き者なので、どこまで「からだ」と「こころ」が続くか心許ないですが、おそらく、趣味の自然撮影は続けつつ、私を支えてくれた四半世紀の和光生活をふりかえってかみしめたいと思っています。そして、誰かの役たつことが少しでもできる暮らしができれば幸せです。

『とりぱん』

(第1巻〜継続中)

とりのなん子 (講談社)

足もとの自然を

深呼吸しながら生きるお手本

卒業後の人生を豊かにする智慧をどう伝えたらいいのか。むろん万能薬など思いつかないのだが、ストレスを抱えやすいわが前半生のバランスを保たせてくれたのはバドミントンというスポーツ。身体に限界が来た後半生では、足もとの自然がその代わりとなった。目覚めてみれば、和光大学近くの自然の恵みはあちこちにある。東北の片田舎を舞台とするこのシリーズの最初に登場するアオゲラだって、キャンパス内でも出会える。本シリーズは野鳥を中心とする生き物とのやりとりがコミカルに描かれる。季節の移ろいを感じながら自然を深呼吸する。それはお金にはならないが、いのちの豊饒を感じ、人生を豊かにするものと信じている。





Q. 退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

1 年は「自主的休暇」に。でも、学校統廃合問題の講演が夏まで入っています。9 月から半年、アメリカ・シカゴ市の大学に行けるよう手続きをしています。サバティカル休暇がちょうどコロナで客員で行けなかったから。次の年からまた働きます。だけど少し余裕ができるかな。いつか自治体の教育行政の仕事をしたい。余暇は推し活。

『子どもの権利』

——国連審査と子どもの権利論の深化

(世取山洋介著作集 1)』

世取山洋介 (旬報社)

子どもの意見表明権を尊重して、という
と、わがまま放題、子どもの言いなりになる、
といったネガティブな声が噴き出る。子ど
もの権利条約を日本政府が批准して三二年、
政府はいまだに「子どもの意見表明権は校
則には適用されない」といい、国民に広く
権利を知らせる義務を怠っている。こども
基本法(二〇二二)ではんの少し風向きが変
わったかも。子どもの意見表明とは、子ど
もの主体的な世界への働きかけとそれを受
け止める大人との関係的権利である、と世
取山は述べる。言葉以外のすべての感情や
行動や時には自傷行為でさえも、子どもの
「意見表明」であり、大人に受容されてはじ
めて子どもは成長・発達することができ
るのだ。和光学園の二つの小学校は、「子ども
の主体性」から出発した教育実践をめざし
ている。きっとこの権利の実現になるはず
だ。

『ひとりの体で』

△上▽△下▽

ジョン・アーヴィング (新潮社)

「性別は男と女の二つだけ」トランプが信
じられない大統領令にサインをするこの世
界で、性の多様性、性的少数者の存在を当
然のことと思う人、ジェンダー意識が最先
端の和光大学に通う人にぜひ読んでほしい。
保守的な田舎で成長し、小説家になるバイ
セクシュアルのウィリアムの自己形成史な
のだが、繰り返し読み過ぎ何冊もボロボロ
に。つらい時にしみる。現実には一九八〇年
代のエイズ禍で起きた痛ましいできごと、
愛する人との出会いと別れ、そしてディケ
ンズの長編小説を愛するアーヴィングは、
最後の最後にガツンと来るセリフを準備し
ている。「僕にレッテルを貼らないでくれな
いか——僕のことを知りもしないうちから
分類しないでくれ！」それは少年の時に
出会ったトランスジェンダーの図書館司書、
「生涯の恋人」が彼に発したのと同じ言葉
だった。



Q. 退職後の過ごし方・楽しさを教えてください！

大学を退職後も以前と変わりなく、興味あること一つひとつに丁寧に取り組み、マルチに活動しています。特に大学を離れた事で、デザインの概念をより広くみつめられる様になったのかわかりませんが、多方面からお声をかけて頂き、プロダクトデザインはもとより、幼稚・保育園や小学校などでのデザイン教育へお手伝いさせて頂いてます。

『塑する思考』

佐藤 卓（新潮社）

マルチなデザイナーとして有名な著者は、人と物との関係性のデザインを、可塑的に考えることの重要性を語っている。NHK Eテレの『デザインあ』や明治乳業の『おいしい牛乳』などの日常生活に密接に関わる仕事を手掛けている人と言え、思い当たるのではないだろうか。本書の中で、彼の仕事を通した身近な事例を挙げて解説してくれている点は、デザイナーを心掛けている者に限らず、一般生活者にとっても分かりやすい。特に、「何もしないこともデザイン」であると言う点では、かつて仕事を一緒にさせていただいた私には、とても素直に理解ができる。何かを施すことがデザインの様に思われがちな現実において、デザインの本質というか、本来の正しい意味が正確に教育されていない我が国では、まだまだ啓蒙活動が必要な気がする。日常的な生活に、自然にデザインの本質が語れる様に、多くの人に読んで欲しい一冊である。

『三流シェフ』

三國 清三（幻冬舎）

ざっくりと同年代の彼の存在を知ったのは、『皿の上に、僕がある。』と題した一冊の料理写真本であった。それは、私が社会人として働き始め、思い描いていた世界とはどうも違っていると、気付き始めていた八〇年代始め頃だった。調理が好きな私は、彼の料理に興味はあったが、それ以上に生い立ちや経歴がとても気になった。おそらく、デザインの仕事、いやそれ以上に、生き方を模索し始めていた私の心の隙間に、染み込んで来たのだ。彼の影響が分らないが、その後、私は節目の三〇歳を挟んで世界一周の旅に出かけ、それから三十年以上を経て本学の定年退職を控えた頃に再び出会った彼の決意著書。何もしない者ほど人の功績にジェラシーを感じ、努力している者ほど人をリスペクトする。彼が節目の歳を感じ、次の夢を描きはじめたことを記した一冊がこの本。新たな序章なのだと感じる。



2023 年度退職

現代人間学部 心理教育学科
音楽教育

後藤 紀子 先生

Q. 退職後の過ごし方・楽しさを教えてください！

今は、非常勤講師として学生たちと関わっています。やはり、学生たちとともに考え意見を交わしながら過ごす時間は楽しいです！

少し時間が出来たので、児童劇団のワークショップなどを受けて、インプットの時間を多くとって過ごしています。さあ、次は何をしようかな！

『やなせたかし明日をひらく言葉』

やなせたかし (PHPエディターズグループ)

「アンパンマン」の作者であるやなせたかしさんは、二〇一三年に九三歳で他界されました。著者は、幼少期は劣等感に悩み、漫画家としても思うようにいかず、「アンパンマン」がアニメ化されたのは七〇歳直前、そこからブレイクすることになります。その人生を通して学んだことがエッセイとして書かれています。深い言葉が満載です！

「◎絶望の隣には希望がそとと座っている◎あるとき目の前の席が空いた◎夢は追い求める方が幸福なのだ◎欠点のない人を好きにはなりませんよ」

後藤研究室の中では一番人気の本であり、本を読むのが苦手な人でも皆完読し、共感できる言葉を見つけ話が弾むことが多かったです。皆さんもぜひ読んでみてください。

『聞いて聞いて！音と耳のはなし』

高津修、遠藤義人・文、長崎訓子・絵

(福音館書店)

どうして音が耳に聞こえてくるのかを分かりやすく伝えてくれる科学絵本です。科学絵本とは、「子どもたちに楽しく学べるかがく・知識の絵本」のことですが、今回紹介するこの本は、大人が見ても勉強になることが書かれています。声がどうして出るのか、どうやって音が聞こえ認識していくのか、色々な楽器の音や動物の鳴き声は一秒間に何回震えているのか、なんで耳が二つあるのか、そして耳に届く音のズレがステレオ効果になる秘密等、耳寄りな話が満載です。絵本として音の伝わり方を絵で表現している工夫も見どころです。絵本のページをめくるとびに様々な音が読み手の頭に鳴り響きます。物語ではない科学絵本の魅力を是非味わってください。



2023 年度退職

表現学部 総合文化学科
比較神話学

まつむらかずお
松村 一男 先生

Q. 退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

退職から一年近く経ちましたが、今も大学の図書館（と学食）をしばしば利用しています。在職中とできるだけ同じペースで生活していきたいからです。先生方、職員さんそして学生さんからは奇異の目で見られていますが、どうか許してください。市民向け講座もして、ボケないようにしています。

『オデュッセイア』 ハ上▽ハ下▽

ホメロス（岩波文庫）

主人公オデュッセウスはトロイ戦争に出陣し、トロイの木馬の策略を考え、トロイの都を滅ぼす。そして仲間たちと故郷のイタケ島に帰還するため船出するのだが、海の神ポセイドンを怒らせてしまい、不思議で危険な島々を巡ることで、その過程で仲間たちをすべて失い、たった一人で故郷に戻る。しかし彼は二十年も音信不通であり、妻も息子も彼はもう死んだと思っている。さらに彼に代って王になろうとして、妻にはたくさんさんの求婚者たちが押し寄せている。オデュッセウスは知略を使ってこれらの危機のすべてを解決する。今から三千年近く前の作品だが、現代まで続くあらゆる冒険物語やゲームの元は実はこの作品なのである。

『食は胃のものの味なもの』

小泉武夫（彩古書房）

著者は長年、東京農大で発酵学や酒の醸造の教授を務めてきたが、それより食物に関する多数のエッセイで知られている。この本には簡単に安価に作れる少し変わったレシピが多数紹介されている。カレーの肉はモツを使う。結果として超高カロリーとなる。丼物はシーチキンの缶詰とカニカマで作る。「学生の餌」と名付けられた焼きうどんの具には大根の葉っぱ、魚肉ソーセージ、冷凍コーンを入れる。もちろんグルメは目指していない。味と値段と手早さを考慮しつつ出来る範囲での料理ばかりである。しかしこれって料理だけのことでなく、生き方の一つのスタイルを示していないだろうか。